


I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立弘前第一養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習(探究)の時間 <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input checked="" type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他()		
	単元(題材)名	発表の準備をしよう		
	単元(題材)の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一日の時間割の中で、どの教科のどの部分をごんぼるかを決める。 ・ 朝の会のごんぼり発表に向けて、アプリケーション「Drop talk」の設定を教師と行い、発表の練習に取り組む。 ・ 朝の会のごんぼり発表で、アプリケーションソフト「Drop talk」を併用しながらごんぼることを話す。 		
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	3 年 5 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<p>認知面に差はあるものの、コミュニケーション面では、多くの児童が教師や友達からの簡単な質問に対して答えたり、自分の考えたことや経験したことを話したりすることができる。ただし、場面に応じた話し方で話すことが難しい児童もいる。普段の様子では、友達の失敗に対して寛容に受け止めることができるようになりつつあり、励ましの言葉や応援をする言動が見られる。また、うまくできた際には称賛したり拍手したりする様子が多々見られるようになった。</p>		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	iPad		
	使用したアプリケーションの名称	Drop talk		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input type="checkbox"/> 学習支援 (<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
	I C T 活用のねらい	<p>話すことに苦手ががあり、それによって自主的な発言が少ない傾向が見られたため、自信をもって発言し、相手に伝わるといふ成功体験を増やしていきたい。まずは活用場面を毎日ある朝の会のごんぼり発表とし、操作方法を覚えられるようにしたいと考えた。</p>		
活用の状況と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝の会の前時間に担任の近くに来て「〇〇先生、iPad、お願いします。」と話して一日の授業内容についての説明を受け、何をごんぼるかを自分で決めた。 ・ Drop talk にこれまで編集してきたページを見ながら、「僕は」、学習カード、学習内容、「ごんぼります」を自分で選択して準備することができるようになった。ページにない内容については、担任に作成を依頼するようになった。 ・ 発表練習では Drop talk の音声に合わせて自分も話しながら発表の準備を行った。 ・ 朝の会では、Drop talk を一人で操作しながら四語文で発表できるようになった。 			